

令和6年度 第76回 卒業式 校長式辞「正解」

どこまでも青く澄みわたるこの佳き日に、ご来賓の皆様、そして多くの保護者の皆様のご臨席を賜り、今日の青空のように、晴れやかな卒業式を挙行できますこと、心より感謝と御礼を申し上げます。

保護者の皆様には、卒業という大きな節目を迎えられましたこと、どれほど喜ばしいことか、感慨もひとしおのことと存じます。心よりお慶びを申し上げます。

さて、卒業生の皆さん、旅立ちの日です。この春の光の先に、たくさんの新しい出会いが待っています。皆さん、準備はできましたか？

さようならを言う前に、皆さんが探究してきた「いのち」そして「生きる」ことについて、2つお話をします。

ひとつは、いつか全校朝会で紹介した「心は誰にも見えないけれど、心遣いに見える。思いは見えないけれど、思い遣いに見える」という詩です。心遣いや思いやり、生きることの大切さを教えてくれたこの言葉には、実は原文があります。

宮澤 章二 『行為の意味』 「あなたの〈心〉はどんな形ですか と 人に聞かれても答えようがない 自分にも他人にも〈心〉は見えない けれど 本当に見えないのであろうか 確かに〈心〉は誰にも見えない けれど〈心遣い〉は見える それは 人に対する積極的な行為だから 同じように胸の中の〈思い〉は見えない けれど〈思い遣い〉は誰にでも見える それも人に対する積極的な行為だから 温かい心が 温かい行為になり 優しい思いが 優しい行為になるとき 〈心〉も 〈思い〉も初めて美しく生きる それは 人が人として生きることだ」

という詩です。目には見えない「心」や「思い」は、「生きるという行為」「どのように生きるべきか」ということに他ならないのです。目に見えるものばかりを追いかけてはいけません。本当に大切なものは、目に見えないものです。見えないものへの思いを深めてください。

自分が生きるとは、相手を生かすこと。相手を生かすことは、相手

に生かされること。今ここにいないたくさんの人、たくさんの中から、皆さんは生かされています。心で見なくては見えない。一番大切なことは、目に見えない。見えない心が、見える行為を生み出しているのです。

二つめに、みなさんの門出の言葉の最後、『正解』、どんな思いで歌いますか？ この曲には、次のようなメッセージが添えられています。

「どんな大人になるのか、大人になってどんな発言をしたり、どんな文章を書いたりするのか。それは、多感な10代の頃にどう生きたかに、大きく左右されると思う。どんな友がいてどんな人を好きになったのか、どんなことに感動して心を震わせたのか。傷ついてどうしようもなくなった時に、どうしていたのか。やるべきことから逃げずに、どう立ち向かっていたのか。その全てが、この『正解』の歌詞に込められている。答えがある問いばかりを教わって来たけれど、自分だけの正解を探しにいこう。誰がなんといおうが、自分の正解は自分で決めていこう。」と、いうものです。

この先、避けてはならないものが幾つもあります。避けようと思えば避けることができる。逃げようと思えば逃げるすることができる。だけれど、避けたくても決して避けない勇気。逃げたくても決して逃げない勇気。そんな覚悟が必要です。

この先、誰かがあなたを試してくるだろう。誰かが点数をつけてくるだろう。それでも、あなたの一步は、あなただけの一步です。人と比べて、早いとか、遅いとか、そうではなく、自分の一步を、自分の道をしっかりと信じて歩んでください。

この先、あなたの一步一步が、未知の世界へ踏み出されます。今日という日は、二度とありません。毎日が、いつも、新しい道です。未知の道をひたすら歩く。そうして歩きとおしたその先には、きっと、あなただけの正解が待っています。

だから、卒業生の皆さん、最後の掛け声です。「よーい、始め！」
今までありがとう。本当にありがとう。さようなら。